

村田学園百周年記念誌

題字 佐々木裕紀子

村田学園 讃歌

作詞 高橋 掬太郎

作曲 江口 夜詩

千代田の森の風うけて
伸び行くものに光あり
経理の学をこゝに説く
歴史は長し わが学園
村田 村田 仰ぎて呼ばむ

清かにはじく 珠の牙え
磨きて床し 智のこころ
算学究め 世に尽くす
信は剛し わが学園
村田 村田 矜りて呼ばむ

計あるところ 希望あり
学びて開け 幸の扉を
道ひと筋に 貫ける
誉は高し わが学園
村田 村田 讀えて呼ばむ

村田女子高等学校 村田学園小石川女子中学校 校歌

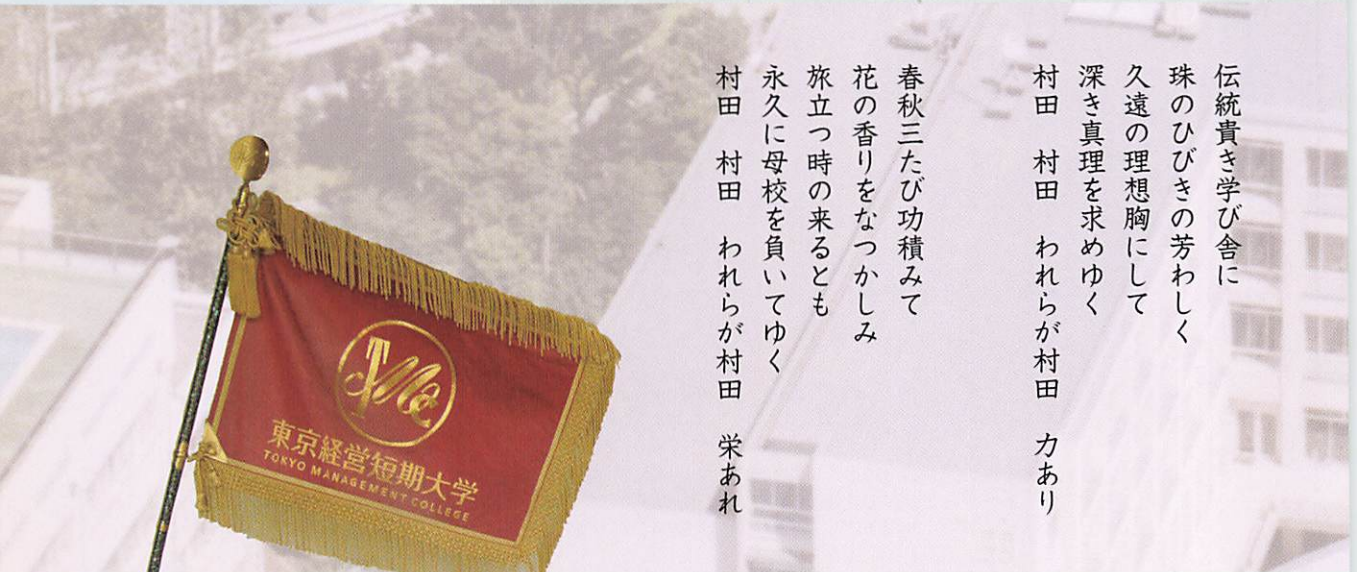
作詞 村田 謙造
作曲 山口 俊郎

その名も床し文京の
紫繚の丘の乙女らは
自由と自治を培いて
明日なすわざをみがきゆく
村田 村田 われらが村田 希望あり



東京経営短期大学 校歌

作詞 古荘 元康
作曲 佐藤 菊夫



伝統貴き学び舎に

珠のひびきの芳わしく

久遠の理想胸にして

深き真理を求めゆく

村田 村田 われらが村田 力あり

春秋三たび功積みて

花の香りをなつかしみ

旅立つ時の来るとも

永久に母校を負いてゆく

村田 村田 われらが村田 栄あれ

遠く富嶽を 望み見て

明けゆく空に 翻翻と

青雲の旗 今ひるがえる

ああ友よ こころざしを

ともに結び ともに遂げん

見よや見よ 我等の輝く軌跡

東京経営 これぞ その学府

大海原に 昇る日の

光を受けて 朗朗と

躍動の歌 今鳴り渡る

ああ友よ 新世紀を

ともに拓き ともに生きん

聞けや聞け 我等の轟く凱歌

東京経営 これぞ その学府

村田 謙造 先生

近代商業史に不朽の足跡を
残した稀世の教育者



明治20年1月2日、山口県下関市生まれ。下関商業学校、大阪高等商業学校2年修了。明治42年、「銀行会社事務員養成所」を創立。多くの有能な人材を輩出し、簿記の普及に努めるとともに、各種団体の要職を歴任し、職業技術教育の近代化に貢献する。昭和50年3月23日死去。享年88。

「簿記は、すべての国民が、常識として、きちんと学んでおくべきである」という教育理念と、「計算五訓」をもとに「銀行会社事務員養成所」を二歳の折に設立、明治・大正・昭和の三代にわたり、その信念

を貫き通して商業教育界の牽引車としての役割を果たしてきた。

算盤（ソロバン）の革命とまで言われた「村田式計算器」や検定試験の練習に用いる「村田式算票」の考案、また、簿記・珠

算の講師として数々の学校関係の指導をはじめ、諸官庁、会社、団体への出講で、簿記・珠算の振興に寄与した。特に昭和期に入って日本各地で開催されるようになった珠算競技大会では、その指導者として招聘され正に東奔西走であった。のちに、日本商工会議所の珠算能力検定試験の生みの親として、その施行に役立った珠算界の連絡機関「五一会」の結成に発起人として名も連ねている。

天性の美声が謡曲、剣道、自彊術等さらには磨かれ、明瞭さと正確さで読上算、読上暗算の担当者としては第一人者であった。昭和十一年の日本商工会議所主催「第一回全国珠算競技大会」がラジオで全国中継されたり、あるいは算盤が米国のニュース映画で海外に紹介されたりした際の名調子は謙造先生であった。圧巻は、昭和二十二年に発売された当時としては珍しい「珠算能力標準レコード」である。文部省認定を得た算盤のレコードは、先生の美声とともに全国で珠算を学ぶ人々のよき師範役とし

て重宝がられた。

簿記に関する著作も多く、大正一〇年「最新商業簿記表解と公式」(大阪屋書店)をはじめ、昭和一三年までに九冊を上梓、簿記参考書類の少ない時代に脚光を浴びた。昭和三〇年には、北海道札幌市内に開校した「北海道簿記専修学校」からの協力要請を快諾し、校長として迎えられ五年間の責

務を果たしている。

関東大震災、第二次大戦での二度にわたる校舎の焼失、加えて村田簿記学校においては隣家からの出火による類焼など、災厄のたびにそれを乗り越え校舎を再建した。教育に対するあくなき情熱で、校舎再建という一念を遂げたのである。書を愛し、蘊奥を究めた腕前は多くの

「書」を残している。座右の銘である「有算者勝」を揮毫し、墨痕鮮やかに書かれた一筆は高等学校の体育館に彩りを添え、生徒に親しまれた。

明治気質を維持しつつ、各時代に順応しながら人間味溢れる教育に終始した行動は、常に絶賛されるとともに、商業教育面に多大の功績を残している。

〈役 職〉

昭和10年12月 東京商工会議所簿記検定試験常任委員
昭和11年 9月 日本商工会議所、東京商工会議所より全国珠算競技大会専門委員
昭和24年 8月 日本各種学校総連合会常任顧問
昭和26年 3月 千代田区各種学校協会初代会長(28.3迄)
昭和29年 5月 東京都私立学校審議会委員(37.5迄)
昭和29年 6月 東京都法人立各種学校協会初代会長(33.9迄)
昭和29年 8月 全国私立学校審議会連合会常任委員
昭和31年 3月 全国経理学校協会会長(33.12迄)
昭和31年 4月 東京商工会議所簿記検定試験常任委員
昭和31年 4月 鉄道弘済会嘱託(40.3迄)
昭和32年11月 東京都私立各種学校協会相談役
昭和33年 4月 財団法人私立中学高等学校協会監事
昭和34年 1月 社団法人全国経理学校協会理事長(36.4迄)
昭和34年11月 全国各種学校総連合会相談役
昭和36年 4月 全国商業高等学校協会常任理事
昭和36年 5月 社団法人全国経理学校協会相談役
昭和38年 3月 社団法人・学校法人維持基金財団常任理事
昭和39年 8月 千代田区特別職報酬等審議会委員
昭和40年10月 千代田区民生委員推薦委員長
昭和42年 6月 千代田区代表監査委員(49.4迄)

〈栄 誉〉

昭和15年10月30日 教育勅語頒布50年に文部大臣より表彰を受ける
昭和20年 2月11日 実業教育振興中央会長より表彰を受ける
昭和25年 2月22日 私立学校法制定祝賀祭典に永年勤続者として表彰を受ける
昭和25年 5月 3日 憲法発布記念の佳辰にあたり、簿記・珠算の権威として、実業教育の振興に貢献した功により藍綬褒章を受章
昭和28年 5月13日 学制80周年記念式典に教育功労者として文部大臣より表彰を受ける
昭和29年10月28日 東京都産業教育70周年記念に際し、産業教育の功労により表彰される
昭和39年 5月16日 公益のため私財を寄付した功により、紺綬褒章を受章
昭和40年 4月29日 春の叙勲に際し、勲三等瑞宝章を受章
昭和40年10月11日 東京都産業教育80周年記念にあたり、産業教育に対する功績顕著として東京都知事より表彰を受ける
昭和40年10月11日 東京都産業教育振興会会長より表彰を受ける
昭和40年11月 3日 産業教育に尽瘁した功績により、産業教育振興中央会会長より表彰を受ける
昭和40年11月10日 産業教育80周年記念式典に際し、教育功労者として文部大臣より表彰を受ける
昭和45年11月26日 公益のため私財を寄付した功により、紺綬褒章に付する飾板を下賜される
昭和50年 3月14日 昭和天皇より銀盃を下賜される
昭和50年 3月23日 正五位に叙せられる

村田照子先生

凜として
愛情あふれる教育を貫いた生涯



大正15年4月11日、山口県下関市生まれ。東京女子大学数学科を経て明治大学商学部卒業。村田女子商業高校の教員となり、昭和50年、創立者の遺志を継いで村田学園理事長、村田簿記学校及び村田女子商業高等学校の校長に就任。学園経営のかたわら、各種団体において実務教育の振興に努める。平成18年6月19日死去。享年80。

昭和五〇年四月、父謙造先生を継承して理事長、校長の職につき、商業教育一筋の道を歩んだ。先生の教育は、「身につけた技能・知識こそ本物の宝である。なぜなら、その宝こそ習得した人を支え、助けてく

れる」が根幹で、「一般教養にプラスして、何か一つ専門技能を習得している女性」の育成に努めた。

村田簿記学校では、商業実務の資格取得指導を中心に、より広く門戸を開放した。

高等学校においては、普通科が偏重されるなかで、職業教育を主とする学科の必要性を「それぞれの目的に存在意義があり、相互の間に上下、優劣の関係は全くなく、またあつてはならない」と主張、進路指導に大きな風穴を開けた。

昭和二六年、「村田女子商業高等学校」と改称した高等学校は、その第一期生三四名を迎えた。それは照子先生の粉骨碎身の努力が実った結果であつた。知名度の低さ、木造平屋建ての校舎に加え、学校紹介のパンフレットさえもきちんと準備されていない状況で、都内の中学校を訪問、その数百数十校に及んだ。その上、第一期生の卒業年度における求人企業は皆無、生徒たちが途方に暮れるなか、生徒の履歴書を抱え企業の人事課へ「試験だけでも」と走り回った。折からの不景気で多くは門前払いであつたが、地道な努力の積み重ねで人事課の人たちが徐々に胸襟を開き、就職希望者は全員内定を勝ち取ったという。照子先生二九歳での若き行動力であつた。

明るい性格で、歯切れよく言うべきことをきちんと言うことから、生徒・保護者に好印象で、学園内のみならず、各方面にもカリスマ的な存在として知られるようになった。昭和四〇年頃からは、中学校での生徒・PTAを対象とした講演会が急増し、講演依頼が多い年で年間八〇校を超えた。自ら著した「高校へ進学を志す皆さんへ」と題した小冊子を配布し、商業科の必要性、高校進学の意味、進路選択の在り方、私立学校の立場などを述べた。講演中、村田女子商業高等学校という言葉は自己紹介での僅か一回で、決して自校のPRをすることではなかった。このような終始一貫した態度は、中学校の先生方にも快く受け入れられ、その後の生徒募集に追い風となった。

進学指導で切り捨てられた中学生にも「宝を持たせて社会へ送り出したい」と、村田簿記学校に高等課程を開設する。常々提唱していた「人間に落ちこぼれなどはない。同じ桜の開花でも南から北まで二ヶ月

以上の違いがある。人間も同じで、早く芽が出る者、遅い者、世の中に出てから開花する者さえいる。いつ芽を出し花が咲いてもいいように、しっかりとした土壌を作ってあげたい」という想いを具現化したものであった。また、商業実務をさらに深く学びたいという意欲に燃える商業高校の生徒たちの希望を叶えようと、短期大学の設立に踏み切った。五年間一貫教育の構想が練られ、それを実践に移す努力が続けた。それは、商業教育の質の向上に役立てようとする理想の実現であった。

「率先垂範」を信条とし、常に生徒や保護者と向き合う姿勢を崩さなかった。長期間に及ぶ北軽井沢教室でも休むことなく料理長に徹し、生徒と若い教員への指導に力を注いだ。また、相手の話を聴くことがうまう、特に教育面でその才能が遺憾無く発揮されていた。正に「聞き上手は話し上手」であった。

文才にも恵まれ、高校新聞「ひさかた」、

簿記学校新聞「かわら版」にコラムを書き続けた。「ひさかた」は「村田照子先生随想集」（一〇〇号記念・平成一六年）に、多くの在学生・卒業生が楽しみにしていた毎年の寒中見舞は「歳月の詞」（喜寿記念・平成一五年）にまとめられている。

私立学校の原点を見据え、村田学園の特色を活かした教育活動に邁進し、商業教育界に偉大な足跡を残した生涯であった。

《役 職》

昭和54年3月	千代田区教育委員会委員(58.3迄)
昭和54年5月	全国商業高等学校長協会常務理事
昭和55年6月	東京都産業教育振興会理事
昭和56年5月	財団法人産業教育振興会中央会評議員
昭和56年5月	全国商業高等学校長協会副理事長
昭和56年6月	財団法人東京都私立学校教育振興会評議員
昭和57年6月	社団法人東京都専修学校各種学校協会常務理事(62.5迄)
昭和59年6月	全国専修学校各種学校総連合会常任理事
昭和59年6月	財団法人専修学校教育振興会理事
平成 2年6月	社団法人東京都専修学校各種学校協会会長(6.5迄)
同	全国専修学校各種学校総連合会副会長(6.6迄)

《栄 誉》

昭和58年10月	1日	学校教育功労者として、東京都知事より表彰を受ける
昭和59年11月	20日	産業教育功労者として、文部大臣より表彰を受ける
昭和60年	7月 1日	専修学校教育功労者として、文部大臣より表彰を受ける
昭和61年	4月29日	春の叙勲に際し、実業教育の振興に貢献した功により藍綬褒章を受章
平成12年	4月29日	春の叙勲に際し、永年に亘る私学振興への功により勲四等宝冠章を受章



亀田 光昭 理事長

昭和18年12月22日生。東京理科大学理学部化学科卒業。理学博士。

昭和42年より、川村中学校・高等学校にて教鞭を執る。

昭和50年より、川村短期大学・川村学園女子大学で教える。

昭和51年～61年、川村学園で教鞭を執りながら、米国・ユタ大学の
リサーチフェローとして研究を行う。

平成16年4月、財団法人科学技術振興会理事長就任。

平成18年4月、東京経営短期大学学長就任。

平成18年6月、学校法人村田学園理事長就任。

平成19年4月～平成21年10月、専門学校村田経営義塾校長。

現在の学園



村田女子高等学校校舎
村田学園小石川女子中学校校舎
(文京区本駒込)



神保町ビル (千代田区神田神保町)





「算数無私情」

「算数ニ私情無シ」と訓じ、「およそ経理にたずさわる者は私情を交えてはならない」の意である。



「有算者勝」

「算有ルハ勝ツ」と訓じ、「算学計理の心得ある者は、人にまさる」の意を表す。これを広義に解釈すると、「ものごとくに緻密な計画性をもってあたるならば、必ず成就する」の意である。



東京経営短期大学校舎
(千葉県市川市二俣)



市川グラウンド (千葉県市川市二俣)



北軽井沢高原寮 (群馬県)

村田記念館 (東京経営短期大学内)



思い出の創立八〇周年記念式典（1989年）

